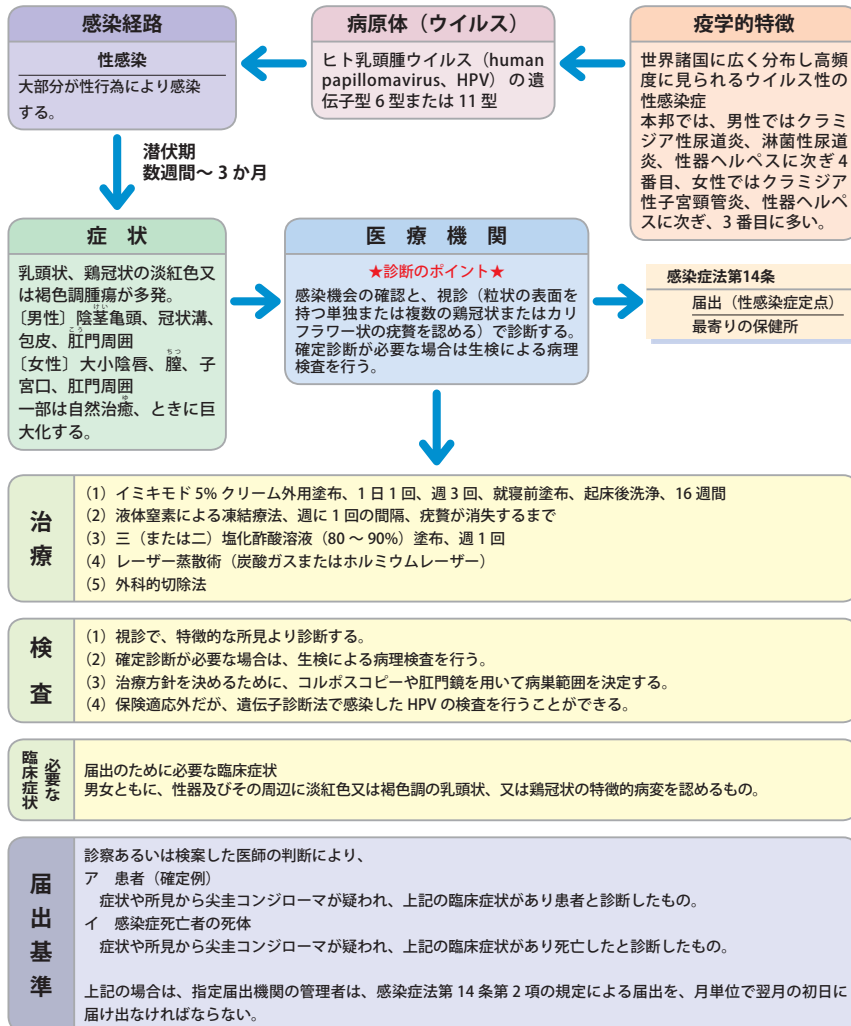


## (21) 尖圭コンジローマ ……五類感染症・性感染症定点

### Condyloa acuminatum



#### 参考図書

- (1) Guidelines of care for warts: human papillomavirus. Committee on Guidelines of Care. J Am Acad Dermatol. 1995 Jan;32(1):98-103.
- (2) Epidemiologic classification of human papillomavirus types associated with cervical cancer. N Engl J Med. 2003 Feb 6;348(6):518-27.
- (3) 性感染症 診断・治療ガイドライン 2011. 日本性感染症学会誌 2011;22(1)supplement:70-73.
- (4) Human papillomavirus, anal squamous intraepithelial lesions, and human immunodeficiency virus in a cohort of gay men. J Infect Dis. 1998 Jul;178(1):45-52.

#### 発生状況

ゆるやかな増加傾向にある。女性は 20 歳代、男性は 30 歳代がピークになる。  
 男性ではクラミジア性尿道炎、淋菌性尿道炎、性器ヘルペスに次ぎ、4 番目に多い疾患。女性ではクラミジア性子宮頸管炎、性器ヘルペスに次ぎ、3 番目に多い疾患。

#### 臨床症状

男性では陰茎の亀頭、冠状溝、包皮、陰囊、女性では大小陰唇、膣、子宮口、男女とも肛門内、肛門周囲に好発する。腫瘍の外観は乳頭状、鶏冠状で淡紅色ないし褐色調を呈する。20～30% は 3 か月以内に縮小するが、時に巨大化する。再発率は高く、悪性型のウイルスが検出された場合、外陰癌や子宮頸癌発症の可能性あり。免疫抑制状態と HPV の再感染しやすい環境であれば、増大、難治性、再発などを繰り返しやすい。

#### 検査所見

感染機会の確認と、視診（粒状の表面を持つ単独または複数の鶏冠状またはカリフラワー状の疣贅を認める）で診断する。  
 確定診断が必要な場合は生検による病理検査を行う。  
 病巣範囲の決定：コルポスコピー、又は拡大鏡（膣、子宮口）。肛門鏡  
 組織検査：表皮突起部の顆粒層に濃縮した核と細胞質の空胞化。  
 核酸検出法（Hybrid capture 法と PCR 法）：ヒト乳頭腫ウイルス型の検出。ウイルスは癌との関連により良性型（6, 11, 42, 43, 44）、悪性型（16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68）に分類される。

#### 病原体

ヒト乳頭腫ウイルス (human papillomavirus, HPV) の遺伝子型 6 型または 11 型  
 HPV6 型もしくは 11 型感染者の 75% 以上は発症する  
 時に皮膚型 HPV-1,2 型、又は悪性型 (HPV-16 など) の検出あり。  
 エンベロープのない DNA ウイルス (パポウイルス科パピローマウイルス属)

#### 感染経路

接触感染：皮膚粘膜の微小な傷より侵入  
 母子感染：妊婦のコンジローマから産道で児に感染し、多発性喉頭乳頭腫や尖圭コンジローマを発症することあり。

#### 潜伏期

数週間～3か月

#### 拡大防止

性パートナーの診断、治療、追跡は重要である。  
 コンドームの使用が大切だが、病変が広範囲の場合完全な予防はできない。  
 外陰部に皮膚炎があると感染しやすい。

#### 治療方針

病変の大きさ、個数、範囲により治療の難易度が決まる。  
 時間が経過すると増大拡散するので、少しでも早く治療を開始する必要がある。  
 複数の治療法があるが、1つの治療法では完治せず、ほかの治療法に変更する必要があることがある。再発率は、治療後 3 ヶ月で 10～30% と高いため、治療後に再発の確認が必要である。  
**【疣贅の大きさが単発・多発で数 mm でそれほどおおきくない場合】**  
 (1) イミキモド 5% クリームの外用塗布（塗布は 1 日おきに行い、6～10 時間後に石鹸で洗い落とす）を 16 週間継続する。（治癒率は 60～70%）  
 (2) 液体窒素による凍結療法を週に 1 回の間隔で疣贅が消失するまで繰り返す  
 (3) 三（または二）塩化酢酸溶液（80～90%）を細い綿棒に含ませ、疣贅に週 1 回の間隔で塗布。  
**【疣贅の大きさが単発・多発でも 1cm 以上の大きな場合】**  
 (1) イミキモドクリームの外用 (2) レーザー蒸散術（炭酸ガスまたはホルミウムレーザー）  
 (3) 外科的切除法（術後の疼痛や瘢痕形成の可能性が高くなる  
 遺伝子診断法で感染した HPV の検査が可能であるが、保険適応外である。行う際には、専用の綿棒で疣贅の表面を擦過して、ハイブリッドキャプチャー法により、高リスク型 HPV と低リスク型 HPV の検出が可能である。高リスク型 HPV が検出された場合、女性は年 1 回細胞診により追跡する。HIV 感染者では悪性型が多いという報告があり、再発率も高く巨大な腫瘍を形成することがあるので、早期に確実に治療する。4 価 HPV ワクチンによって予防可能である。